

協連障・協全社

新型コロナウイルスで勉強会 困りごと整理し対策示す

全国社会福祉協議会
・障害関係団体連絡協議会（障連協）は4月22日、地域での支え合いに関する研究委員会をオンラインで開いた。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い障害者や家族が困ったことを整理し、今後同様の事態が生じた際の対策を検討した。

同日は、感染症専門医の小原博・埼玉福祉事業協会杉の子くりにつく院長を講師に、福祉施設における感染予防・拡大防止対策について学んだ。

小原院長は、同協会障害者施設の感染予防対策などを踏まえ、厚生労働省のガイドラインで示されている七つ（三密回避、手指の消毒、マスクの着用、アクリル板やビニールシート）の活用、換気、適度な湿度、ゾーニング）の基本対策を徹底する重要性を強調。「対面で1分以内、15分以上接触した場合は、濃厚

を着用、トイレを感染者・濃厚接触者・その他の者で分け、使い捨て食器を使い、熱水や次亜塩素酸ナトリウム液で消毒後に洗濯をするなどの対応が必要だとしている。

参加者からは、ウイルスの変異株についての質問が出され、小原院長は「体内に入るまでのリスクは変わらないが、変異株は増殖力が強く、重度化しやすい。医療用マスクや二重マスクは体内に入るリスクを減らせるが、呼吸が困難で現実的ではない。七つの基本対策の徹底が重要」などと語った。

（井口拓治）